

日本画家 福王寺一彦 “Starry in the moon” エキシビションを開催
繊細に輝く、宝石の奏でる色たち



この度、日本画家 福王寺一彦の繊細で美しい作品をフィーチャーし、視覚と聴覚から作品のもつ魅力、現代において人々に必要な気付きを表現するエキシビションを、表参道ヒルズ スペース オーにて開催します。福王寺一彦は、ルーブル美術館での国民美術協会（SNBA）主催 2017 年芸術展にて、最優秀賞と審査委員特別賞を同時受賞という栄冠に輝きました。日本画壇を代表する作家 福王寺一彦の作品の持つ奥ゆかしく深い魅力、観る者に与える癒しと感動を、表参道ヒルズという場所で、より多くの方々に向けて発信します。更に、今回の展示では、最新の 3D 音響を用いることで、絵と音が奏でる時空を超えた癒しを表現します。

福王寺一彦の作品は、水晶、孔雀石、アジュライト、ロードクロサイトという天然半貴石を石臼で砕いた岩絵の具と 24 金、プラチナを顔料とし、一色を塗っては数日間乾かし何層にも重ねることで、独自の奥深い青や緑を生み出します。このオーガニックなアート技法により丁寧に描かれる作品では、天然半貴石の結晶体が光に反射することで、下地の色に透明感のある美しい輝きをもたらし、得も言われぬ「宝石の色」が浮かび上がります。自然の美しさと緊張感へのリスペクトに満ちた作品は、ジャンルや時代の垣根を越え、人々を魅了します。

日本画家 福王寺一彦

1955 年 生まれ。

1968 年 父 福王寺法林に師事。1978 年「追母影」で院展初入選。自然を表現する独自の繊細な画風で知られる。

2001 年「月の耀く夜に 三」で日本芸術院賞を日本画部門史上最年少 45 歳で受賞。

2017 年 ルーブル美術館 国民美術協会（SNBA）主催芸術展にて、最優秀賞及び審査員特別賞を受賞。

現在 日本美術院同人（評議員）、日本芸術院会員、日本美術家連盟理事、日本美術著作権協会（JASPAR）代表理事・会長。

■日本画家 福王寺一彦 “Starry in the moon”エキシビション

会期：11月23日（金）～ 12月2日（日）11:00-21:00 一般公開（※25日（日）～20:00、2日（日）～18:00） 入場無料

会場：表参道ヒルズ 地下3階 スペース オー（東京都渋谷区神宮前4-12-10） filrouge.jp

@filrouge_official #filrouge_official #福王寺一彦

■主催 株式会社フィルージュ info@filrouge.jp

■運営協力/プレスコンタクト 株式会社ステディスタディ 03-5469-7110 filrouge@steady-study.co.jp

プレスコンタクト：株式会社ステディスタディ 高野・福崎 03-5469-7110 filrouge@steady-study.co.jp